

第12回团委員会報告 昭和55年8月12日(火) 定例 於鞍馬口烏丸東「神田」 18:00～
出席者 - 中川、園田、河原、三田、小島、西村、橘、服部、五十嵐、西脇、永田、黒宮、松本、
西山、末吉。 欠席者 - *多門、*原田、小川(連絡不充分) 出席率83% (*100%)

※ 協議・報告事項

1 各隊育成会報告

- 育成会会則審議について。
いずれの育成会でも、原案通り承認されたとの報告を受けた。
- 次期团委員の各隊選出分について。
次の通り選出報告があったが、CS隊については、カブのキャンプ終了後になるとのこと了承。
- B S - 西脇、南、前田。 S S - 橘、松本、黒宮。 R S - 中川、河原、西村。

2 次年度各隊指導者の選任について。

- 次の通り選任を決定したが、CS隊長と副長の追加について、カブのキャンプ終了後に。
隊長 - B S 山川 譲氏。 S S 本多直樹氏。 R S 大庭俊一氏。
副長 - C S 榎本信也、小松耕二、山川勝也、入矢徹雄各氏。
B S 河原昌史氏。 S S 鶴田茂一氏。

3 团委員会選出の次期团委員について。

現团委員の留任を基本として、新たに加わっていただきたい方々があげられたが、CS隊の決定を待たねば最終決定できないので、团委員長、組拡に選任を一任した。

4 会費納入方法について。

郵便振替による払込とし、払込料金は各自負担とすることを決めた。

5 技能章考査員の推薦について。

8月10日切の提出書類の内容を事後承認した。

6 その他について省略。

第13回团委員会報告 (現在・次期合同团委員会)

昭和55年9月2日(火) 定例合同 於ハウス長休広間。 19:47～22:05

出席者 - 中川、西村、河原、服部、多門、宮本、黒宮、五十嵐、隅田、南、原田、橘、前田、松永、小川、松本、山内、西山、永田、小島、末吉。 欠席者 - *園田、*西脇、三田、中村。(84%)

※ 协議・報告事項

1 団会議報告

- 各隊夏季活動報告その他。
- 次年度隊指導者の選任について。
前回团委員会で未決定であったCS隊について、隊長に下坂紀一氏を再任、副長の追加はなしとした。
- 团委員長の互選、役務分担について。
 - 团委員長に西村泰一氏を再選した。
 - 新团委員長の指命による、副团委員長の河原幸一氏、团委計の橘愛治氏を承認した。
 - 团委員の役務分担を次の通り決定した。

野営行事(備品係も) ○西脇、多門、黒宮、松永各氏。
組織拡張 ○松本、小島。

進歩 ○五十嵐、宮本、南、各氏。

財政 ○永田、前田、隅田、○橘(团委計)各氏。

健康安全 ○原田、園田、西山各氏。

指導者養成 ○服部、中村各氏。

事務 ○末吉、山内各氏。(○印=責任者)

4 上進式について。

9月6日 19:15より長休寺広場にて、末吉、SSによって実施計画を承認。

5 育成会総会について。

顧問として小川先生を名誉会員に推薦する。

育成会長に中川恵造氏を、また会計監査に三田兼治氏、石田敬輔氏を推薦。

次年度予算案審議は三役に一任。

育成会総会の御案内

来る9月27日(土) 19:30より長休寺本堂にて、統合第1回育成会総会を開催します。
内容は次の通り重要です。万障お操り合せご参考下さい。

- 昭和54年度各隊活動、団行事報告。
- 昭和54年度収支決算報告。
- 昭和55年度顧問、育成会長、会計監査の選出。名誉会員の推薦。
- 昭和55年度团委員並びに役務分担承認。
- 昭和55年度各隊指導者選任報告。
- 昭和55年度活動計画について。
- 昭和55年度収支予算について。
- その他。

父が一番感心し喜んだのは、高校時代の私に、父が一番へ転落するキザシを見せていたことは、子供の私が稼がなければといふ状態ではなく、好奇心からしてみただけのことだつた。それなのに父は、とても喜んで私の給金を仮壇に供え、一緒に掛けといふ額でもないのに、外で稼いだというだけで、あたかも私が一段と上等の人間になつたかのようにみる父を、当時は不思議に思つた。祖父に若死にされ、中学に進学することも許されず、長として商売を始めた父にとても働いて稼ぐことは厳しかつて、頭を使うにしきつた。息子の私に、手足を使うにしろ、頭を使うにしきつた。息子の私が稼ぐには、自分で稼いで食べていけるようになることが一番大切だと教えた。気持ちつたのだろう。

私は「食べるためには働け」といった考え方方は非常識と呼ぶ。「遊びや楽しみを買うためには稼げ」といわなければ納得できなくなる。

ある程度、金を稼いだら会社をやめてパリにでも遊びに行こうなどという気楽な若者が多いのも不思議がる方がおかしいのだろうか。別にはつきりした勉学の目標がなくとも大学に行きたい、大学に留学したいという若者が多くなつた。

父は商売人として田舎では、それにくらべて、学校の成績がよかつたことなど、特にこゝでほめるとはなかつた。父は商売人として田舎では、稼ぐことにに対する意気込みが変わることもある。

平均的にみて、男性の方が職務に対して熱心であり、競争社会の圧迫感に耐え得るといわれるのも、男性は妻子を養っていくなければならない。という通念があるからである。

だから、私は、だれでも高校を出たら、大学に入る前に、しばらく実社会に出て働いてみたらいいと思っていました。大学入学前に働く体験を

見るものだ。人間は直接利益が見えるときだけ喜んで働くものだともいえない。大学に行きたい、大学に留学したいという若者が多くなつても驚くべきでないのだろう。大学院入試の口頭試問で「今すぐ就職するのは、おううだから大学院に入れてほしい」という若者が出現しても、笑えないのだろう。

基础工事など土木事業が盛んで、入手が足りなくなつたせいに、さまざまな人が働くことになった。ヤグラを組んで穴を掘つてゆくのだが、私のシャベルの使い方がへただと、見回りの人が「こういう風にやるんだけ。見てろ」といって教えてくれた。ニコリともしないで、どなりつけられるばかりの監督が、難しいところになると自分で走り出でてくる。働くという字は、人並みに働くと書く。老人福祉の問題についても、老

人の連載を

「青年の翼」

860円
を購入されると
よいと思います。

第五章**働く中に真の人生**

父が一番感心し喜んだのは、高校時代の私に、父が一番へ転落するキザシを見せていたことは、子供の私が稼がなければといふ状態ではなく、好奇心からしてみただけのことだつた。それなのに父は、とても喜んで私の給金を仮壇に供え、一緒に掛けといふ額でもないのに、外で稼いだというだけで、あたかも私が一段と上等の人間になつたかのようにみる父を、当時は不思議に思つた。祖父に若死にされ、中学に進学することも許されず、長として商売を始めた父にとても働いて稼ぐことは厳しかつて、頭を使うにしきつた。息子の私に、手足を使うにしろ、頭を使うにしきつた。息子の私が稼ぐには、自分で稼いで食べていけるようになることが一番大切だと教えた。気持ちつたのだろう。

現在の日本では、終戦直後の「食べるため働く」貧困状態など、記憶から消えうせたかのようである。水準の高い安定した生活を送ることは人間の権利であり、それを保証するのは社会の責任であり、政治の義務であるという。特に集団的圧力をかけて要求すれば、十中八九度得できることは當識となつた社会で

求めめるモラトリアム人間がふえているという時代でも、「食べるため働く」といわなければ納得できなくなる。

稼ぐことは面倒く見えただけではなく、自分たちが働く場も欲しているのだ。大した額でもないのに、外で稼いだというだけで、あたかも私が一段と上等の人間になつたかのようにみる父を、当時は不思議に思つた。祖父に若死にされ、中学に進学することも許されず、長として商売を始めた父にとても働いて稼ぐことは厳しかつて、頭を使うにしきつた。息子の私に、手足を使うにしろ、頭を使うにしきつた。息子の私が稼ぐには、自分で稼いで食べていけるようになることが一番大切だと教えた。気持ちつたのだろう。

人たちは単に食べさせてもうだけでなく、自分たちが働く場も欲しているのだ。大した額でもないのに、外で稼いだというだけで、あたかも私が一段と上等の人間になつたかのようにみる父を、当時は不思議に思つた。祖父に若死にされ、中学に進学することも許されず、長として商売を始めた父にとても働いて稼ぐことは厳しかつて、頭を使うにしきつた。息子の私に、手足を使うにしろ、頭を使うにしきつた。息子の私が稼ぐには、自分で稼いで食べていけるようになることが一番大切だと教えた。気持ちつたのだろう。

人たちは単に食べさせてもうだけでなく、自分たちが働く場も欲しているのだ。大した額でもないのに、外で稼いだというだけで、あたかも私が一段と上等の人間になつたかのようにみる父を、当時は不思議に思つた。祖父に若死にされ、中学に進学することも許されず、長として商売を始めた父にとても働いて稼ぐことは厳しかつて、頭を使うにしきつた。息子の私に、手足を使うにしろ、頭を使うにしきつた。息子の私が稼ぐには、自分で稼いで食べていけるようになることが一番大切だと教えた。気持ちつたのだろう。